

YAMANASHI



■ この期を利用し、さらなるサービスの向上を

■ 定期総会

■ 平成22年度協議会事業計画

■ 部会活動報告

■ 施設訪問記 甲府南ライフケアセンター

この期を利用し、さらなるサービスの向上を

山梨県福祉保健部長寿社会課長 桐 原 篤



皆様方には、高齢者介護の最前線で、要介護高齢者の自立支援にむけ、日々ご尽力をいただいておりますことに、改めまして感謝申し上げます。

さて、昨年度を振り返ってみますと、職員の処遇改善をねらいとした初めてのプラス3%の介護報酬改定に始まり、さらなる処遇改善を図るために職員に直接賃金改善分を交付する「介護職員処遇改善交付金」制度の創設、さらには、雇用情勢の厳しい中で、成長分野として期待をされる介護を対象にして、雇用対策として「働きながら学ぶ雇用プログラム」が打ち出されたところです。

個々の事業には、皆様方からいろいろな課題もご指摘いただいたところですが、総体としてみますと、介護の領域が政治の関心を集め、これまでにない新たな政策が重点的に行われたという意味で、まさに期を画するような年ではなかったかと思います。皆様方には、それぞれの事業にたいへんご協力をいただきましてありがとうございました。

対人サービスを行う介護の世界では、サービスに直接携わる職員の確保や資質の向上が重要なのは言うまでもありません。職員の処遇面から施設のサービス向上を後押しする、これらの処遇改善の施策がとられたこの期を利用し、介護現場の環境改善に向け取り組んでいただくことがたいへん重要であると思います。皆様方の積極的な取り組みをお願いするとともに、研究・研修事業を通じての貴協議会の一体となったサービス向上への取り組みを期待しています。

さて、この3月で、介護保険制度が始まってちょうど10年が経過したところです。早くも国においては、24年度から始まる次期の介護保険制度に向け見直し作業が始まっています。この中では、団塊の世代が75歳に達し、必要とされる介護サービスの量が急増する2025年を目標年度として、それに対応できる仕組みの構築が議論になっており、その基本方針は、在宅でも施設と同様のサービスを提供できる「地域包括ケアシステム」の構築といわれています。

この地域包括ケアは、高齢者が要介護状態になっても 住み慣れた地域や自宅で生活を継続できるよう、医療・介護等の様々なサービスが適切に提供される仕組みということであり、詳細はまだであり、今後の議論の推移を注視していきたいと考えていますが、地域での生活を支えるという点で、在宅とを結ぶ「老健」の、在宅復帰に向けたリハビリ施設としての役割に期待するところが大きいということが国の方でも指摘されているところですので、今後、具体的になるなかで、皆様方のご協力もお願いしたいと考えています。

結びに、山梨県老人保健施設協議会の益々のご発展と会員の皆様のご活躍を祈念し、あいさついたします。

平成22年度 山梨県老人保健施設協議会定期総会



平成22年4月30日（金）ベルクラシック甲府において、県内30施設のうち28施設55名の会員の皆様に参加を頂き、山梨県老人保健施設協議会の定期総会が開催されました。

始めに、保坂 久会長より昨年の当協議会主催の職員交流ソフトボール大会、並びにソフトバレーボール大会が、新型インフルエンザの流行により急遽中止になり大変残念でしたが、感染拡大防止にはおおいに効果を上げることができました。

又、昨年の新潟での全国大会は本県からも多数参加を頂きました。是非、本年の岡山大会にもできるだけ大勢のご参加をお願いしたい等、ご挨拶がありました。

続いてご来賓として、桐原 篤様（山梨県福祉保健部長寿社会課長）から、職員の処遇改善を図る為の「介護職員処遇改善交付金」の経緯と説明を頂きました。それを元に、職員の確保、質の向上及び介護現場の環境改善に、期待と励ましのご挨拶を頂きました。

引き続き議案審議に入り、平成21年度の事業報告、決算報告、平成22年度の事業計画、予算案等が審議され、全議案とも全会一致で原案どおり可決承認されました。



総会終了後、恒例の懇親会が開催され、会員相互で情報交換や意見交換が活発に行われ有意義のうちに終了しました。



保坂会長挨拶

山梨県老人保健施設協議会

会長 保坂 久



第13回山梨県老人保健施設協議会定期総会の開催に当たりご挨拶を申し上げます。

本日はご多忙の中を本総会にご参加頂きありがとうございます。日頃は何かと本協議会の運営に、積極的にご協力を賜り心から感謝申し上げます。昨年は予想もしなかった新型インフルエンザの世界的な流行で本会の運営にも少なからぬ影響をもたらし会員の皆様にはご迷惑をおかけしましたが、皆様のご理解とご協力によりその影響も未然に防ぐことが出来ました。しかしその陰で、会員の楽しみでもある、ソフトボール大会やソフトバレーボール大会など急遽中止するなど、ハプニングもありましたが感染の拡大

防止には大いに効果を上げることが出来たと考えております。お陰様で11月に行われました山梨県介護老人保健施設大会には29施設236名の参加を得て、特別講演、一般演題など貴重な発表が行われ新型インフルエンザ流行時にも関わらずさしたる影響もなく盛大に実施されましたことは誠に幸せであったと思います。

さて我が国は昨年の総選挙で民主党政権に変わりました。そして私たちが想像していた以上に日本の国は大きく変わりつつあります。近く参議院選挙を控え、その結果は大きく政局を揺るがすことになるかもしれません。しかし政体が如何に変わろうとも、私たち老人保健施設協議会の理念は変わりません。私たちは我が国の高齢化社会を担い、老人介護に徹し、日本の高齢化社会を守るという気概だけは絶対に忘れてはなりません。介護報酬の問題は私たちの大きな関心事ではあります。この度の介護職員処遇改善交付金の問題も、いくつかの問題点が指摘されているところではありますが、これとても、一昨年私たちが介護報酬値上げの要求に対する悲痛な叫びに対してであった筈であります。政局がいかように変わろうとも介護職員に対する処遇改善は急務であります。私たちは政府のこれからの施策に強い関心を寄せ注意深く見守りたいと思います。そして私たちの果たすべき役割は日々高齢化する介護老人に対する介護技術の研鑽と温かい心で接するやさしさであります。昨年秋開催された新潟での全国大会には本県からも多数参加され多くを学ばれたことと思われませんが、これからも日々研鑽され高い介護技術の習得を心から祈念するものであります。今年も岡山で全国大会が開催されます。会員の皆様の多数の参加をお願い申し上げます。

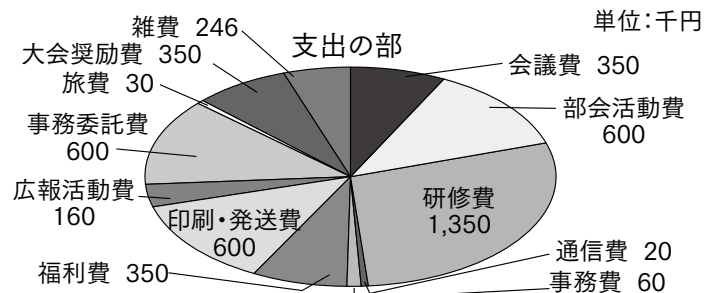
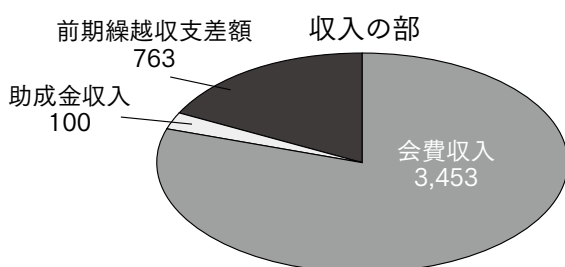
終わりに本総会が成功裏に終わることをご期待申し上げると共に本協議会の益々の発展と皆様のご健勝をご祈念申し上げ、ご挨拶に代えさせていただきます。

平成22年度 協議会事業計画

- | | |
|------------------|----------|
| 1. 定期総会の開催 | 年1回 |
| 2. 臨時総会の開催 | 必要に応じて開催 |
| 3. 理事会の開催 | 年5～6回 |
| 4. その他の事業 | |
| (1) 医師連絡会の開催 | 年1回 |
| (2) 行政主催の各会議への参加 | |

月	協議会活動	専門部会活動
4	研修委員会 (4/6) 福利委員会 (4/9) 理事会 (4/16) 広報委員会 (4/21) 定期総会 (4/30)	専門部会長会議 (4/7)
5	新人職員研修会 (5/19) 研修委員会 (5/19) 福利委員会 (キャプテン会議)	支援相談員部会 (5/18)
6	第3回職員交流ソフトボール大会 (6/27) 広報委員会	介護支援専門員部会 (6/16) 看護部会 (6/17) 介護部会 リハビリ部会 栄養士部会
7	理事会 広報誌『ろうけん』27号発刊	事務長部会 通所リハビリ部会
8		支援相談員部会 (8/17)
9	福利委員会 (キャプテン会議) 第15回職員交流ソフトバレーボール大会 (9/19) 研修委員会 (9/21)	栄養士部会 介護・看護部会合同研修会 (9/8)
10	理事会 広報委員会 研修委員会 (10/25) 第13回山梨県老健大会 (10/27)	介護支援専門員部会 (10/20) 事務長部会
11		支援相談員部会 (11/16)
12	広報委員会	
1	研修委員会 理事会 医師連絡会議 広報誌『ろうけん』28号発刊	介護・看護部会合同研修会
2	特別研修会	支援相談員部会 (2/15) 介護支援専門員部会 (2/16) 通所リハビリ部会 栄養士部会 リハビリ部会 事務長部会
3	理事会	看護部会

平成22年度 山梨県老人保健施設協議会収支予算書の概要



部 会 活 動 報 告

リハビリテーション部会

第2回 リハビリテーション部会の開催

日 時：平成22年2月25日（木）13：30～16：30

場 所：リバース和戸

活動内容：○勉強会「老健で出来る、嚥下・摂食へのアプローチ」

講師 笛吹中央病院

言語療法士 小菅久美子先生

○平成21年度部会総括・次期役員の紹介

第2回部会では、笛吹中央病院のST小菅久美子先生を招き、STの視点から見た「嚥下・摂食」についての考え方や取り組み方を教えて頂きました。摂食・嚥下に対して再認識し、新たな知見を得られた機会になったのではないかと思います。

今後も日々業務に携る中で生じる疑問や新たな見識について学習し、老健同士で情報を共有しあい、部会を通じ業務に反映できたら幸いと思います。

部会長 遠藤 勇志
(山梨ライフケアホーム)

通所リハビリ部会

第3回 通所リハビリ部会の開催

日 時：平成22年2月18日（木）14：00～16：00

場 所：リバース和戸

出 席：20施設25名

活動内容：①勉強会「認知症と回想法」

講師 相模原藤野地域包括センター所長
石原元恵先生

②事業・会計報告

③次期役員選出・決定・紹介

④情報交換・その他

勉強会では実技を交えた講義を受けることが出来ました。利用者様との会話や傾聴することの大切さを再認識しました。

今年度も昨年度と同様に、ケアに活かせるような勉強会を予定しています。内容はフット・ハンドケアとパーソン・センタード・ケアについての講義です。有意義な会になるよう、努力していききたいと思います。

部会長 吉池久美子
(ケアホーム花菱)

事務長部会

第3回 事務長部会の開催

日 時：平成22年1月22日（金）14：30～16：00

場 所：笛吹市スコレーセンター

出 席：23施設27名

活動内容：平成21年度実地指導について

実地指導を受けた13施設からの報告を基に各施設の問題点の精査を実施した。

今年度も3回の部会を開催し、アンケート調査により、他施設の取り組みを確認し、自施設に反映できるよう、努めます。



部会長 網倉 健也
(NAC湯村)

介護支援専門員部会

第3回 介護支援専門員部会

日 時：平成22年2月17日（水）14：00～17：00

場 所：リバース和戸 2階 視聴覚室

活動内容：グループワーク「身寄りの無い方の受け入れ対応」担当グループの提案により5グループに分け各施設の現状を話し合いました。実際身寄りの無い方、生活保護者が入所しているか、お金の管理や緊急時入院の対応、身元保証、成年後見制度の活用等、さまざまなケースを情報として共有できたと思います。今後このような方が施設入所者として増え、市町村、社会福祉事務所等行政との連携が必要になり、制度や知識の習得が必要になると予想されます。

施設ケアマネとして本部会が業務の悩み、課題や問題点が解消される研鑽の場になり、大勢の参加を頂けるよう有意義な会にしていきたいと思っています。



部会長 渡邊 静江
(ももくら)

部 会 活 動 報 告

看護部会

第2回 看護・介護合同部会の開催

日 時：平成22年1月20日（水）14：00～16：30

場 所：山梨県立青少年センター

本館3階 第一研修室

活動内容：講義「ストレスから自分を守るために」

講 師：山梨大学 大学院医学工学総合研究部
健康・生活支援看護学講座 教授
水野 恵理子先生

出 席：27施設61名

ストレスから自分を守るための対応策の講義は、まずストレスについて理解をする（知る）、ストレス（表れ）に気づく、できる範囲での自分自身のケア、それには対処方を自分でいくつか用意しておく。たとえば、喫煙 飲酒 食事 睡眠 運動等生活習慣の見直しや仕事面ではリーダーを中心にチーム全体で理念を再確認し利用者個々の看護、介護計画も確認してチームで共有しリーダーがチームの状況をこまめに把握し勤務時間に組み込まれた会議以外にも気楽に話し合いができる場が必要である等であった。

今回の講義に対し普段勤務する中でいかに多くの人がストレスを感じ対応に苦慮しているのか出席率から伺えた。

部会長 西村喜代美
（甲府南ライフケアセンター）

介護部会

第2回 看護・介護合同部会の開催

日 時：平成22年1月20日（水）14：00～16：30

場 所：山梨県立青少年センター

本館3階 第1研修室

活動内容：講義「ストレスから自分を守るために」

講 師：山梨大学 大学院医学工学総合研究部
健康・生活支援看護学講座
教授 水野恵理子先生

出 席：25施設55名

「ストレス」をテーマにストレスへの対処、実践現場でのストレス、組織のストレスマネジメント、心の健康づくりについて水野先生より御講義頂きました。

今年度も3回の開催を予定しております。第1回目の部会では各施設の日常業務に関する意見交換テーマをもとにグループワークを行う予定です。2回目3回目は看護部会と合同の研修会を予定しております。

皆様に参加して頂けるよう有意義な内容を企画していきますのでご協力をお願いいたします。

部会長 小林 大
（甲府南ライフケアセンター）

栄養士部会

第1回 栄養士部会の開催

日 時：平成22年6月18日（金）

場 所：リバース和戸館 2階視聴覚室

活動内容：①平成21年度栄養士部会事業報告・会計報告
②平成22年度栄養士部会事業計画・会計予算案
③新栄養状態評価（MNA）についての勉強会
並びに栄養強化食品を使用した症例検証
④情報交換・その他

各施設で実施している栄養アセスメント時、それに使用するツールの様式例が厚生労働省から示されておりますが、国際老年医学会会議で議論があり、「低栄養の高齢者対象の有用アセスメントツールがない」ということからMNA（Mini Nutrition Assessment）という評価表が誕生しました。世界中で広く用いられ、日本静脈経腸栄養学会でも取り上げられて話題になっていることから、その特徴と利点を学び、現行より更に明確且つ短時間でアセスメントができるこのツールを活用していきたいと考え、勉強会の議題に取り上げました。更に、普段の給食では補正しきれない栄養不良状態を、いち早く強化食品を使用することで改善できた症例を検証し、今後の栄養ケアに大変参考になりました。

栄養部門では、医療的管理や、より質の高い栄養管理が必要な入所者が増加しており、今後更にその個別性に対応が求められていくでしょう。老健であっても、より病態栄養に近い知識と技術が必要になってきている現状、それに対応できるスキルアップを目指せる研修にしていきたいと考えています。更にそれをどのようにすれば各施設に浸透させ、実践につなげるかまで検討したいと思っています。

部会長 潮上 幸恵
（峡北シルバーケアホーム）

支援相談員部会

第1回 支援相談員部会

日 時：平成22年5月18日（火）

場 所：青少年センター

出 席：26施設29名

今年度は、昨年と同様4回開催します。平成12年に介護保険制度がスタートして、10年目を迎えました。その間、様々な法律改正などが行なわれてきました。依然として厳しい環境のなかで、支援相談員の業務とその責任の範囲はますます広がってきています。

第1回は、今年度の活動計画と各施設での問題点・情報交換（相談員としての営業活動など）現場の意見を参考にしながら討議しました。今年度は「事業所、福祉機関などの連携と情報の共有」をテーマに活動して行きたいと思っています。

部会長 依田 秀規
（あさひホーム）



五月雨に、新緑が潤う日の午後、甲府南ライフケアセンターを訪問させていただきました。甲府バイパスと甲府精進湖線が立体交差する北側に平成8年4月に開設されました。周りに神社等の緑も多いせいか、交通の要衝のすぐそばにもかかわらず、静かな住宅地の中にありました。今日は、五味事務長からお話を伺いました。

施設の特徴

「地域における維持期リハビリテーションの拠点」を目指し、常勤理学療法士6名・作業療法士1名、非常勤理学療法士1名にクラーク1名を加えた体制で、日々取り組んでいます。平成18年4月の改正により始まった、介護予防通所リハビリテーションにも積極的に取り組み、現在毎日15名の方が励んでおられます。「機械に頼らずに直接、利用者の皆様にふれる」リハビリは、多くの皆様に支持され、多数の待機者が出るまでになっています。

「介護健康フェアINこうふ」への参加により、会場を訪れた大勢の皆様に、リハビリテーション的アプローチを実際に体験していただき、老健施設のリハビリテーションについての啓蒙活動を行っています。

もうひとつは、「地域に根ざした施設」を目指しています。小学校を始め各種専門学校等の実習生を受け入れています。また、併設の甲府市南地域包括支援センターを窓口として、総合相談、虐待防止相談、成年後見制度、認知症サポーター養成講座や家族介護教室を地域で開催し、銀行等の企業にも講師を派遣しています。

多彩な行事やレクリエーション

四季折々の行事を中心に、実施していますが、なかでも納涼祭は利用者や家族だけでなく、地域の皆さんや、実習生を中心とした50名強のボランティアと模擬店、盆踊り、打ち上げ花火、和太鼓ボランティア、圧巻は数十メートルのナイアガラで大歓声です。毎年、400人弱の参加者で大盛況です。打ち上げ花火や音響等についても苦情は一度も無く、地域に根ざした地道な活動のおかげと思いました。

老健の将来の展望

リハビリテーションの質の向上を更に目指し、甲府市民、県民の医療・福祉に貢献したい。また、ややもすれば、一時預かり的なショートステイを、短期集中的なリハビリテーションの実施による機能維持を目的とした利用を普及させたい。そのように締めくくられた五味事務長、地道な活動と実績に裏付けられた力強さを感じました。

シリーズ さくひん



『雨に喜ぶ花畑のカエル』

(甲府南ライフケアセンター)

色紙、画用紙、おはながみを使った、通所の利用者の皆さん35名の力作です。

施設の概要

- ◆入所定員 100名
- ◆通所定員 55人
- ◆協力病院 市立甲府病院
- ◆協力歯科 ばば歯科医院
- ◆所在地 〒400-0851 山梨県甲府市住吉五丁目24-14
- ◆電話番号 TEL 055-241-3333 FAX 055-241-7564
- ◆設置運営主体 医療法人 立星会

編集後記

広報委員長をお受けして2年がたちました。

今年は3%の介護報酬改定に始まり「介護職員処遇改善交付金」など、施設職員の処遇改善を狙いとした制度の創設がありました。

施設を運営していく管理者を始め、各職員のさらなるレベルアップを心がけねばならない環境になってきたように思われます。

日常の慣れた環境を見直し、利用者にとってよりよいサービスを心がけることが任務だと、改めて感じております。

今後、広報委員会としても会員皆さんの担い手となるよう広報活動に取り組んで行きたいと思っておりますのでご協力をお願い致します。

広報委員長 米 波 達 男
(ナーシングプラザ三珠)

山梨県老人保健施設協議会広報誌

編集・発行 山梨県老人保健施設協議会

広報委員会

事務局 〒405-0076

山梨県笛吹市一宮町竹原田1255-1

いちのみやケアセンター内

TEL.0553-47-4811

FAX.0553-47-4815

ホームページ:

<http://www.y-rouken.jp>

Eメール:rouken@tiara.ocn.ne.jp

印刷 株式会社 少国民社